

## 新版 教室英語表現事典

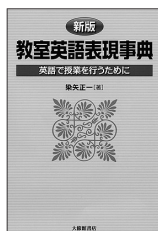
英語で授業を行うために

染矢正一 著

四六判・578頁  
本体3600円＋税

[評者]

井ノ森高詩



### 教室英語表現の詳細な入門書 職員室の机の上に常備したい1冊

英語の授業は英語で行うことを基本とする、と言われ新しい年度が始まりはや数ヶ月。頭に浮かんだことがスラスラと英訳されて、あるいは最初から英語が浮かんできて何の苦労も感じない英語教員がいる一方で、毎日のように頭を抱えたり冷や汗をかいいたりしている英語教員もいるのではないかと推測する。

例えば以下のような言い回しは英語では何と言えいいのだろうか。

「机がガタガタする」「机に落書きしないように」「行間をたっぷり空けて書きなさい」「マイクに向かって話さない」「3枚目の紙は汚れています」「ぼろぼろになるまで、辞書を使いなさい」「ちょっと脱線しましたが」

本書に目を通してながら、私自身が「これ、英語で何て言うかなあ、ああなるほど」と思ったものをいくつか挙げさせていただいた。皆さんはいかがであろうか。

生徒と相対する場面で使う英語表現のネタは、英語教員自身が生徒・学生の立場だった時に恩師が使っていた英語か、同僚であるネイティブ教員が使う英語かに頼らざるを得ない。しかし、そのネタ

にも限界がある。「こんな時には何と言えいいのだろうか、辞書ではこれといった表現が見つからないし、今日はALTは来ないし」という悩みに、本書は応えてくれる。

本書は考えられるありとあらゆる表現を場面別・機能別にまとめているので、読者は目次や索引を頼りに必要な表現を探し出すことが可能だ。

I「始業」着席、挨拶、出欠、遅刻、II「授業の前提」授業の前提となる環境、CALL教室などの設備・機器、規律、例外的状況、III「授業活動」授業開始、学習活動の提示、生徒とのやりとり、教室で使ういろいろなもの、授業後・家庭学習の課題、授業でよく使う表現、IV「授業内容」聞くこと、発音、読むこと、書くこと、作文、読解、単語・語い、文法、V「英語学習について」学習方法について、英語を学ぶ意義、英語や英語文化に関する知識、VI「テスト・試験」試験前後、試験問題指示文、採点・成績、VII「授業の周辺」連絡・相談など、教師についての質問、VIII「終業」終業間近、連絡・指示など、終業時の表現、IX「ネイティブスピーカーの英語表現実例」実例1～6

IV部は高等教育機関の教員向けかと思われるが（小中高の教員はこまでは必要ないと思われる）、I部からIII部までの表現は事典として検索するのではなく、表現集として読んで音読練習をしてもいいくらいだ。

困った時にすぐに関けるように職員室の机の上に常備したい一冊である。

（いのもり たかし・  
明治学園中学高等学校教諭）

## 学校用語英語小事典

[第4版]

竹田明彦 著

四六判・354頁  
本体2200円＋税

[評者]

前田昌寛



### 学校教育に関するすべての用語が 網羅された実用事典

本書は、学校生活に関するあらゆる事物を英語で何というか、著者の長年にわたる高校現場での経験をとおして必要なものを集めた事典である。学校・職員室・教室の設備や備品の項からはじまり、生徒指導、生徒会、ホームルーム活動、クラブ活動、進路指導、各教科、学校行事、教育行政、教育に関する法律と学習指導要領などに関する用語、さらに試験や授業で使われる英語の指示文まで項目別に網羅されており、現場の教員には必携の一冊である。必要に応じて調べる検索性辞書として使えるほか、調べたい用語が収録されている項目内すべてに目を通してよくと周辺知識も身に付き、表現の幅が広がるであろう。

「用語事典」と聞くと専門用語が並ぶ堅苦しいイメージが先行するが、実は英語で授業を行うときに使えるクラスルームイングリッシュ集としても本書は実用的である。たとえば「答案を交換して採点」しなさいという指示は、exchange papers and mark them また「考えをまとめ」なさいという指示は organize one's thinking と書かれており、そのまま教室で使える表現である。授業は英語で

行うことが基本となったいま、このようなクラスルームイングリッシュが自然に飛び交う教室づくりが第一歩であり、本書はその期待に応える内容である。欲を言うと音声CDが付属されていたら、本書の実用性がさらに増し、現場の教員の大きな手助けとなったであろう。

本書の最大の魅力は、単なる用語の羅列ではなく、実際の用例や用語解説がとても丁寧かつ豊富であることだ。これは新しく来日したAET (ALT) に日本の学校事情を説明するときに大変役に立つだろう。たとえば、「逐語訳をする」translate word by word という用語に関して「日本の生徒は少し難しい文章を読むとき逐語訳をしがちです。先生が全体の意味をとる方法を教えないからです」という用例がある。学校現場をよく知っている著者ならではの用例である。これに関して「言語活動」を多くし「ざっと目を通す」読み方を授業に取り入れてほしい、などの要望がAETに対して考えられるが、その際に必要な用語も本書ではしっかりカバーしている。

著者が、はしがきで指摘しているように「日本人は抽象的な単語は案外知っているが、具体的な身近にあるものの英単語はあまり知らない」ものだ。BICS (生活言語) レベルの語句が苦もなく表現できれば、CALP (学習言語) レベルへの移行はスムーズになるはずだ。

英語表現をはじめとする発信型の授業でも本書が活用されれば、生徒のBICSレベルの表現能力育成にも寄与するであろう。

(まえだ まさひろ・

石川県立金沢桜丘高等学校教諭)

## 英語学習者コーパス活用ハンドブック

投野由紀夫・金子朝子・  
杉浦正利・和泉絵美 編著

A5判・258頁  
本体2200円＋税

[評者]  
仁科恭徳



### 隆盛を迎えた学習者コーパス研究

本書は、コーパス言語学と第二言語習得・外国語教育研究にとって待望の国内初となる英語学習者コーパス研究の概説書である。学習者コーパスの到来により、言語習得・教育に直接貢献するコーパスデータの獲得が可能となった。理論上でしか語られなかった仮説も検証可能となり、言語(教育)学関連分野において、その注目度が高まっている。特に、英語学習者の言語的特徴の頻度と分布を調査することで、新事実発見にも貢献している。

本書は、まず、学習者コーパスの歴史的概観とICLEなど代表的な英語学習者コーパスの概要に始まる。そして、日本人英語学習者コーパスを用いた先行研究の紹介や、秀逸な国内研究者による具体的研究事例の紹介へと続く。特に、コーパス分析の具体的な手法や方法論が分かりやすく提示されている点が本書の魅力だ。各章に設けられた「Technical Box」ではコーパス分析時に必要となるコンピュータ処理の手順やPerlなどのスクリプトが詳しく解説されており、読者にはありがたい。本書のデータは研究用に公開されていることから、追従調査も可能である。

具体的な構成内容は以下の通り。第1章「学習者コーパス研究のこれまでとこれから」では、学習者コーパスの歴史と、設計基準や特徴を含めた世界中の学習者コーパスが紹介され、最後に各関連分野の研究における学習者コーパスの活用の可能性に触れている。第2章から第9章までは、具体的な分析事例がテーマとコーパス別に紹介されている。第2章「学習者英語の国際比較」ではICLE、第3章「学習者英語の談話分析」ではLINDSEI、第4章「学習者英語のコロケーション分析」と第5章「学習者英語と母語話者との比較」ではNICE、第6章「学習者英語の学習段階別分析」ではJEFLLコーパス、第7章「CEFR基準特性と学習者英語」ではICCI、第8章「学習者英会話データの分析」と第9章「学習者英語の自動分析」ではNICTJLEコーパスを用いた分析事例が紹介されている。最後の第10章「学習者コーパスを活用した指導」では、現在までの学習者コーパス分析から獲得した知見を教育現場に活かすべく、コーパスデータを加工した練習問題の作成や、コーパスの分析に基づくセットフレーズの問題例(クローズテストなども含む)などが紹介されている。

各章末には、ブックガイドや更なる発展研究の示唆がまとめられており、本書を通して学習者コーパス研究を真剣に学ぶ読者の方々には参考になろう。また、日々の授業に学習者コーパスのデータを活用して信頼性あるガイドラインを得たい現場の英語教員にも本書をお薦めしたい。

(にしな やすのり・

明治学院大学専任講師)